

ベーチェット病患者の臨床像と、診断および治療に関する研究のお知らせ

研究に関するお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2019年9月4日～2023年12月31日

〔研究課題〕 ベーチェット病患者の臨床像と、診断および治療に関する後ろ向きコホート研究

〔研究目的〕 ベーチェット病は再発性口腔内アフタ性潰瘍、皮膚病変、陰部潰瘍、眼病変を4主症状とする原因不明の炎症に基づく症候群です。症状は急性発作性と慢性進行性などがありますが、出現の順序や改善の経過などは未だ明らかとなっていません。本研究では当院で診療を受けているベーチェット病患者の臨床情報（年齢、性別、発症年齢、罹病期間、ベーチェット病の主症状・副症状の出現時期、検査所見、画像所見、治療内容など）をこれまでのカルテ記録と調査表を用いてデータベースを作成し、ベーチェット病の臨床像を後方視的に明らかにすることを目的としています。

〔研究意義〕 本研究に参加することで、ベーチェット病の臨床像と診断および治療の効果等が明らかになれば、患者自身のその後の治療に反映することが期待できます。

〔対象・研究方法〕 現在帝京大学病院に入院または通院歴のあるベーチェット病患者さんにおける各症状の臨床経過を、1989年1月1日から2020年11月30日までのカルテ記録と調査表を用いて検討します。目標対象者数は当院に入院および通院歴のあるベーチェット病患者は300名ほどいるため、全例登録を目標としています。

〔研究機関名〕 帝京大学医学部 内科学講座 リウマチ・膠原病グループ

〔個人情報の取り扱い〕 本研究の結果は、学会などで発表、学会誌にて公表します。更に種々のサブ解析の結果も内外の学会にて発表、学会誌に公表します。本研究の結果は個人が同定されないように集計値として扱い、本研究の実施にかかわる原資料の直接閲覧、医学雑誌への発表などの場合でも研究対象者の個人情報は保全されるものとします。研究終了後にデータセット等を倫理委員会事務局に提出し、帝京大学臨床研究センターにて10年保管の後に廃棄します。

〔その他〕 本研究に謝礼金や交通費の負担などは発生しません。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問い合わせ先

研究責任者：帝京大学医学部 内科学講座 教授 河野 肇

研究分担者：富塚 崇史、菊地 弘敏、浅子 来美、木村 佳貴、津久井 大輔、小口 洋子

所属：帝京大学医学部 内科学講座 リウマチ・膠原病グループ

住所：東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL：(代表)03-3964-1211 [内線 40351]